総務委員会会議録（要点筆記）

令和８年１月２１日（水）
午後１時３０分　開議

〇委員長（中村和也）
　ただいまから、総務委員会を開きます。
　協議題１「閉会中の調査事項について」を行います。
　資料１をご覧ください。
　１１月に実施した県外視察の報告書について、皆様からご提出いただきましたので、その内容について、補足説明を簡潔にしていただき、内容を共有します。では、始めに有留委員からお願いします。
〇有留麻由委員
　訪ねた市全体において、市役所の方がマーケティングに長く携わっていると感じました。マーケティングの結果が見えるまでには、かなり時間がかかるので、担当を長く置く必要があるのではないかと思いました。
　仙台市は、東北の中心ということで、周辺の自治体とも協力して、事業を行っていると感じました。半田市も発酵ツーリズムで取り組んでいますが、周辺自治体とどれくらい意思統一ができているのかと思いました。知多半島全体で関係人口を増やし、その中心になるということがいいのではないかと思います。
　真岡市は、いちごを徹底的にブランディングしていました。ただ、私は真岡市のように１個に絞るというのはハードルが高いと思いました。
　そして、取手市はファンクラブがあり、そこの方が旗振りをして、発信の目的を握っていると感じました。そのような統一性が半田市にも必要なのではないかと思いました。
〇芳金秀展委員
　まず、仙台市に関して、大事なことは外部人材や専門企業とパートナーを組んで、スピード感を持って進めていると強く感じました。今、半田市も外部人材という協同パートナーはいますが、そのような外の知見を生かしていくということはこれからも大事だと感じました。
　真岡市に関しては、「分析と戦略」ここに時間と人をかけていて、しっかりとしたものを作り上げてから物事を進めていくことが大事だと感じました。
　取手市については、転入転出に目を向けず、市民のシビックプライドという住みやすさ、住み続けたいと思っていてもらうことを第一義としていました。さらに、長期的に大学の誘致を行い、東京芸術大学の取手キャンパスを起爆剤にしていました。知多半島にある日本福祉大学は福祉やウェルビーイングといった特徴があり、まちのコンセプトに合わせたまち作りの協同パートナーとして生かしていくことが、取手市から学べたことだと思います。
〇坂井美穂委員
　真岡市は、態度変容ロジックモデルを構築し、具体的にインナープロモーション、アウタープロモーションとして、メインターゲットをそれぞれに設定し、将来像や取り組む事業を明確に位置付けていました。さらに、どういう心理になっていくかということを含めて、ロジックモデルを構築し、ここに到達するためにこういうことを実施するという積み上げをされているところが素晴らしいと感じました。
　それによって、令和６年度のふるさと納税の寄附額は令和３年度の２５倍、いちごの返礼品の申し込み件数が１００倍と実績を出していますので、ぜひこういったところを参考に半田市版の態度変容ロジックモデルを構築できるように、具体的に取り組むことが非常

に面白いと感じました。

○新美保博委員

それぞれ３つの市がそれぞれ自分の個性、そのまちに合ったまち作りをしていました。半田市も、今後どうしていくのかといったときに、半田市に合ったものを実施すればいいと思います。

○石川英之委員

３市に共通することとして、思いを持った人がそのポジションにいることが、一番印象に残ったことであり、学んできたことです。数年で異動する人が一生懸命色々なことをやろうとしていることには無理があります。

専門的なポジションをきちんと作って、そこに力を入れていくべきだと思います。

○渡邉昭司委員

半田市もある程度分析はできていると思いますが、今からそれをどう活かすかというのが課題だと思いました。ふるさと納税は、真岡市を参考に見せ方で伸ばす余地があると感じました。

取手市は、大学と連携しており、半田市には日本福祉大学があるので、そういうところで何かできることがないかと感じました。

○副委員長（田中嵩久）

仙台市は地区別のマーケティング戦略を行い、それぞれの魅力をヒアリングも含めて業者が分析し、どのエリアではどういう人をターゲットにして、どんな体験をしてもらうことで行動に移していくかという戦略がとられていました。

真岡市では、マーケティング戦略をかなり分析しながら行っていました。どういう結果を生むために、逆算すると何が必要なのかというロジックモデルを組み立てて、それに沿って成果を出しながら、取り組むところは素晴らしいことであり、半田市でも繋げられるところがあるのではないかと思いました。

取手市は、市民の参加型で色々な取り組みをされているところが魅力的でした。半田市も山車まつりでＳＮＳを使い、情報発信してくれるメンバーを募っており、市民のシビックプライドを醸成しながら、かつ発信力も高められる取組は参考になると思いました。

○委員長（中村和也）

半田市もそれなりにエリアごとにブランディングに近いようなことをやっていると感じる部分もありますが、仙台市は、もっと徹底的にデータを基にしっかりやられていると感じました。

真岡市は、キャッチコピーを改めて見直して、一貫したストーリーと共通メッセージというところでメッセージの出し方にもこだわっていたと思います。

取手市については、マーケティングという戦略をしっかりしないと、何となくもがいているような、半田市と同じような状況を感じました。

○企画部長（大木康敬）

仙台市について、観光誘客に関する施策を決めていく前段階でマーケティングをしっかりやられていました。地域や観光事業者、飲食店、そういったところと連携する際に、根拠となるマーケティング結果を説明することで、非常に説得力ある議論ができるところは、我々としても参考にしていくべきところだと思います。また、現在は観光協会が主導ということですが、そのデータを活用して継続的に実行し、うまく連携が図れているというところで非常に良い参考になると思いました。

真岡市については、シティプロモーションの視点ということでしたが、それ以前にしっかり庁内の中でマーケティング意識が浸透しており、半田市に必要だと思いました。シティプロモーションや観光振興だけではなくて、例えば子育て支援とか、そういったものも全て事前にマーケティングをして、誰をターゲットにするかというところは必ず必要です。

ただ本市は、そういった部分が一部では行っていますが、うまく表現できていないのも事実で、きちんと全分野でできているかというと必ずしもそうではありません。我々としても把握できていないというのが正直なところなので、こういったところは今後必ず必要になってくると思います。

取手市は、マーケティングというより、まずやってみようという考えで、そういう意味では半田市と似ている部分があると思いました。例えばテレビ局出身の方が職員にいる中で、そういったノウハウを活用するとか、少なくともまずはチャレンジしてみましょうという考え方は我々としても、同じ部分がありました。

○委員長（中村和也）

ありがとうございます。

皆さんからご報告をいただきました。しばらく休憩します。

午後１時４６分　休憩
午後１時５７分　再開

○委員長（中村和也）

委員会を再開します。

意見交換をさせていただきました内容を基に正副委員長案を作りまして、後日、 LINE Works で配信をさせていただきますので、次の委員会までに見ていただければと思います。

続きまして、協議題２「その他」について行います。議会事業評価の見直しについてです。資料２に今年度の議会事業評価結果と当局からの結果報告書があります。今年度、議会事業評価を通して、提言の仕方や当局の回答方法の見直し、それに伴う様式変更の必要があるかどうかなどを協議したいと思います。

協議した内容につきましては、他の常任委員会の意見とあわせて来年度の議会事業評価に反映していければと考えております。

それではご意見がある方は、ご発言をお願いします。

○芳金秀展委員

今回の結果を見て、提言をしたから行動を変えたのか、提言をしなくてもこうする予定だったのか、というのがよくわからない報告をいただいたと思っています。例えば、提言１に関して、私たちの提言は、「いつ、何を、どうする」ということまでは書いたものの、具体的なものではないので、結果も具体的というよりは、総論として賛成していますので努めていきます、となっています。

他の提言に関しても、事前説明の段階で、実施する予定と答えていたものや、既に実施しているものが書いてあります。なので、提言を作るところの反省も含めて、やっていないことをやる、やっていることをもっとやるというのが拡充だと思うので、その意図が伝わりきらなかったと思いました。

この事業評価で提言をしたから前に進んだとは思えないので、防災安全課からは、この提言があったことによって、どう意識と行動が変わったのか、ということを聞きたいと思います。

事業評価の様式と結果報告の受け方にも、課題があると思うので、様式とどういう報告の仕方をして欲しいかというのを、バージョンアップしないと、同じようなことを繰り返してしまう気がします。

○渡邉昭司委員

この結果報告表でもっとわかりやすい答えがもらえるように改善していくのか、結果報告表を書いた担当課に各常任委員会で説明を受けた方がいいのかというのは感じたところです。それをまた議会運営委員会など違う会議体のところで協議して、来年からより良い

ものにしていけたらと思いました。
○有留麻由委員
　今回私達が出した提言に、具体的に「いつ」と書いた内容を受けて、「いつまでに、どれくらいこういうことをする」ということが、特に提言１はあまり反映されてないと思います。私達が提言した具体性というのが、どこまで反映していくのかというところが、はっきりしていなかったのではないかと感じました。
○石川英之委員
　私たちがこの提言の「いつ」という話に、なぜ「令和９年度からやってください」と言ったか、という意図が多分伝えきれていません。私たちは来年度１年間かけて考えて、良いものを令和９年度からやってくださいという感覚でいました。多分、当局はそのように捉えていないので、令和９年度とは言わず、来年からもちゃんとやります、みたいに書いてあるように読み取れてしまいます。今までもそうですが、引き続きやっていきますという軽い返事になっているという印象は受けました。なので、提言の後の理由のところにもっと明確に来年１年かけて、という理由を書いておいた方が良かったのかなと思いました。あとは、この回答に対してもう１回防災安全課と話がしたいと思います。
○坂井美穂委員
　委員会としては、提言１では、防災訓練に関わる機会を創出するという範囲をもっと全市的に広げてほしいということや、提言２では、全ての避難所で多様な人が参加する避難所開設訓練を実施することを目指してほしいということで、市全体でやってほしいことを要望しました。しかし、回答のところは、順次やっていきますという答えで、具体性に欠けるなと思います。例えば、提言２について、今年ですと、要配慮者の避難を想定した訓練をやりますと書いてありますが、その後のこちらが求めているような何年かかけて計画を立てるという全体像を示していこうとする姿勢、計画がないということは感じました。
○芳金秀展委員
　改めて見ると拡充という評価を、多分当局は履き違えていると思います。拡充するということは、足りないということですが、「ちゃんとやっているので、大丈夫です。これからも頑張っていきます。」みたいな答えなので、拡充する気はないという答えが出てきたのだと受け取れます。
　こちらが具体的にしている以上、当局も具体的に答える様式にした方がいいのではないかと思います。拡充するのかしないのか、拡充するのであれば、予算を変えるのか、人を増やすのかなど、具体的に答えられる様式を定めて、このように答えてくださいと様式でサポートできるものはした方がいいと思います。
○委員長（中村和也）
　提言には、「いつ、何を、どうする」と書いているので、回答も「いつまでに、何を、どのように行っていくか」という書式にすることで書きやすくなるのではないかと感じたところです。
　休憩します。

午後２時１１分　休憩
午後２時３８分　再開

○委員長（中村和也）
　委員会を再開します。
　皆様からの意見については、今後、議会運営委員会でも協議したいと思います。
それでは、その他、委員から何かございませんか。

【　「なし」　との声あり　】

〇委員長（中村和也）
　ないようですので、この件はこれで終了します。
　以上で、本日予定しておりました議事は、すべて終了いたしました。
　次回の委員会は２月１２日（木）９時３０分からです。
　これで総務委員会を終わります。

午後２時３９分　散会